第２回キャンパスおだわら運営委員会　会議概要

<table>
<tr><td>日　時</td><td colspan="3">平成２６年７月２日（水）午後２時から４時まで</td></tr>
<tr><td>場　所</td><td colspan="3">小田原市役所　議会全員協議会室</td></tr>
<tr><td colspan="2">委員長</td><td>齊藤　ゆか</td><td>出席</td><td>学識経験者</td></tr>
<tr><td colspan="2">副委員長</td><td>瀬戸　充</td><td>出席</td><td>生涯学習の向上に資する活動を行う者</td></tr>
<tr><td rowspan="9">委員</td><td>金澤　久美子</td><td>欠席</td><td rowspan="2">学識経験者</td></tr>
<tr><td>左京　泰明</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>有賀　かおる</td><td>出席</td><td rowspan="4">生涯学習の向上に資する活動を行う者</td></tr>
<tr><td>安藤　恵</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>岩屋　泰彦</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>与那嶺　信重</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>石井　悦子</td><td>出席</td><td rowspan="2">公募市民</td></tr>
<tr><td>永田　圭志</td><td>出席</td></tr>
<tr><td>立花　ますみ</td><td>欠席</td><td>教育委員会が必要と認める者</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局</td><td colspan="3">（文化部）諸星部長、安藤副部長<br>（生涯学習課）友部課長、大木担当副課長、村田係長、<br>佐久間主任、田中主事</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャンパスおだわら<br>事務局</td><td colspan="3">奥村理事長、落合氏</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャンパスおだわら<br>人材バンク実行委員会</td><td colspan="3">太田委員長、早野副委員長</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴者</td><td colspan="3">１人</td></tr>
</table>

※委員は選出区分別五十音順（委員長・副委員長除く）

１．開会

安藤副部長より、キャンパスおだわら人材バンクの人事に変更があり、委員長に太田氏、副委員長に早野氏が就任したことを報告した。

２．議題

（１）開設講座について

キャンパスおだわら事務局(以下「Ｃ事務局」)　資料１に基づいて説明させていただく。説明に先立ち、資料の訂正をお願いする。項番９３番、９４番について開催時期の曜日に誤りがあった。７月７日の火曜日を月曜日に、７月１７日の月曜日を木曜日に訂正いただきたい。
こちらは前回の２６年度第１回運営委員会に提出したあとの講座になる。講座数は全体で１７９講座と多くの講座がある。今回は７月から開催のキャンパスおだわら人材バンク実行委員会主催「前期連続講座」と８月８日・９日開催の小中学生を対象とした「夏休み子どもおもしろ学校」が全６４講座開催される。資料はジャンル別に分類しており、音楽・演劇が１１講座６％、文学・歴史が２１講座１１％、美術・手工芸が２４講座１３％、以下スポーツ・アウトドア・健康、福祉活動・社会活動、その他のジャンルで講座が開催され、その他が６１講座３３％と割合が大きい。【お】は小田原に関する講座、【子】は子どもたちを対象とする講座である。子ども関係については、夏休みを控え、８２講座４５％の多数を占めている状況。これらの講座はキャンパスおだわら事務局で仮認定したもので、もう一度この場で委員の皆さんに確認していただきたい。説明は以上である。

委員長　７月から夏休みを挟むので、大変多くの講座があるが、何か質問があるか。

有賀委員　講座回数の件で確認をしたい。例えば項番４３番の講座は講座回数が５とあるが、開催時期は８月２日の１日のみである。これは１日で５講座開催されるということか。

Ｃ事務局　午前から午後、１時間ごとの開催で、１日で５回の講座が繰り返されるという内容である。

有賀委員　１回毎に受講者が変わるということか。

Ｃ事務局　その通りである。

委員長　すでにチラシで宣伝しているものも多数あるかと思うが、これらの講座を認定するということでよろしいか。

（異議なし）

（２）キャンパスおだわらのあり方について

友部課長　それでは、議題の「(2) キャンパスおだわらのあり方について」説明する。
最初に情報提供になるが、資料２をご覧いただきたい。
こちらについては、平成２６年５月２９日開催の社会教育委員会議で、小田原市の社会教育・生涯学習のあり方についての答申を、いかに具現化していくかという意見交換の中で出されたもののうち、キャンパスおだわらに関係が深いと思われるものを抜粋したものである。
内容について簡単に説明する。まず１点目は自分時間手帖についてだが、その内容について、他の刊行物との調整や、情報の受け手の立場に立った工夫が必要とのご意見があった。また、配布について、活用したい人が存在を知らないなどの事実があるなどことから工夫すべき、といった意見があった。
２点目は、情報全般についてだが、裏面２頁目の２つ目であるが、情報の流し方は大事で、必要な人のところへ行き渡っていないと感じるので、違う角度からの見直しをすべきとの意見があった。
次に、その他として、キャンパスおだわらを市民の立場から考えることの重要性と、事業や広報を誰のためにやっているのかを忘れないように、との意見が述べられた。
また、最後に、行政側の発言を一部記載しているが、キャンパスおだわらの成果に係る評価や、社会教育委員会議の答申を具体的にどう事業として展開していくかというところも、キャンパスおだわら運営委員会で議論を始めている旨を報告した。
委員の皆様には、今後のキャンパスおだわらのあり方の検討にあたって、これら社会教育委員会議の内容も参考にしていただければと思い添付した。
続いて、前回の運営委員会で承認されたキャンパスおだわらの現状評価のための調査のうち、先般実施したテーマ１の調査結果について説明する。調査にあたっては、運営委員の皆様には、お忙しい中ご協力いただき感謝する。
まず、資料３－１をご覧いただきたい。
これは、評価者全体の平均を表記したものであり、調査項目毎の平均点のほか緊急性及び重要性の平均点の合計も追加している。
次に、資料３－２及び３－３だが、ともに緊急性及び重要性の合計点の高い順に並べた表であり、資料３－２は中分類でまとめたもの、３－３は小分類でまとめたものである。
３－２の中分類では、市民ニーズの把握や、広報（情報発信のあり方）が、３－３の小分類では、同じく市民ニーズの把握のほか、キャンパスおだわら

の運営に関する事項が上位に挙がっている。
次に、資料４をご覧いただきたい。
これは、昨年度の第４回キャンパスおだわら運営委員会で行政案として提示した、キャンパスおだわらの「目指す姿(案)」と、それらに対する指標(案)を、テーマ１の調査結果を基に見直したものである。目指す姿の見直しにあたっては、資料３－３の上位半数を参考にしたので、表ではそれらを目指す姿と対応するようにしている。また、目指す姿に対応すべき事業を「事業名」の欄に黒丸で表示している。
本日は、まず、クドバスの結果を元に、目指す姿(案)の内容についてこれで良いか協議いただき、さらに、その目指す姿を数値で捉えるための指標（案）についても、これで良いか協議いただきたい。
指標（案）については、表の一番右の欄に記載している。また、資料５には、それらの指標案を事業ごとに表記している。本日、追加で配布した資料５－２は、その指標案の現状の数値について、現時点で把握できているものを記載している。
なお、資料の訂正を１か所お願いしたい。資料５の指標案「キャンパス講師自主講座開催数」の表記は誤植であるので、削除いただきたい。
本日の議論を経て、目指す姿及び指標が決定したら、次回の運営委員会では、指標に対する目標値について事務局案を提示し、協議いただきたいと考えている。
最後に、資料６「クドバスの活用とスケジュール」をご覧いただきたい。
こちらは、キャンパスおだわらのあり方の検討へのクドバスの活用と、今後のスケジュールを図示したものである。
テーマ１については、図にあるとおり、本日、調査結果を報告するとともに、目指す姿と指標案の検討につなげた。
テーマ２については、現在、評価者であるＮＰＯ法人小田原市生涯学習推進員の会及びキャンパスおだわら人材バンク実行委員会に項目の確認をしていただいており、確認後調査を実施し、第３回運営委員会の際に結果を提示できればと考えている。テーマ２の調査結果は、目指す姿の実現に向けて、運営の現状把握等に活用できれば、と考えている。
テーマ３については、主体的な市民を育成するために必要な戦略や、求められる能力等の項目となっており、具体的手法の意味合いが強いと思われる。こちらについては、目指す姿や目標値が決まった後、具体的な事業展開を検討する段階で並行して活用方法を検討させてもらえればと思う。
私からの説明は以上である。
先ほど説明したが、本日は、主に、資料４に基づき、目指す姿及び指標について協議いただきたいので、よろしくお願いする。

委員長　　一通りの説明があったが、主に資料４と資料５を重点的にということなので、柱立てて時間をかけるところは時間をかけて議論したい。
まず、資料２については内容が異なるものだが、自分時間手帖は年１回発行されているものなのか。

友部課長　そのとおりである。

委員長　　自分時間手帖について社会教育委員会議で改善点が議論されたとのことだが、これは改善されるのか。

友部課長　自分時間手帖はかなり分厚い内容のものであり、これが見やすいかどうかは意見が分かれるところであるが、検索がしにくい、データが多すぎるなどの意見があったので、改善できる部分については随時改善していかなければならない。改善の内容は決定していない。

委員長　　年に１回発行されているものなので、次年度に向けて改善していくという方向になる。この点について加えて意見はあるか。

岩屋委員　自分時間手帖について自分の会社でも聞いてみたが、知らない人がほとんどであった。費用をかけて作成するのであれば、小田原市民の方に読んでもらわなければ意味がない。年１回発行だと、持っていただくものと思うが、一人一人に配らなくても見てもらえるところに置く工夫が必要。経費削減という意見も出ているので、企業などにも協力してもらい、食堂に置いてもらうなど、市民の目に十分触れるようにすると良い。

委員長　　認知度と浸透ということだと思う。他にいかがか。

有賀委員　４月にスクールボランティアのコーディネーターと担当者が集まるスクールボランティア連絡協議会というものがあるが、その時にけやきの職員から自分時間手帖の紹介をしてもらった。その時にはまだ最新の自分時間手帖が出来ていなかったので、紹介だけで終わった。８月にコーディネーター相談会があるが、その時に自分時間手帖をいただきたい。
今コーディネーターは幼稚園から小学校、中学校まで全学校に配属されている。自分時間手帖をいただければ、キャンパス講師等も載っているので、活用してもらえると思う。よろしくお願いしたい。
学校には１冊配られていると思うが、コーディネーターは学校に配られていることも知らないと思う。サマースクールやクラブ活動、総合的な学習などで講師の方の活用が見られるので、自分時間手帖を紹介したい。

委員長　　次年度は改善できるところからお願いする。現状の認知度や配布方法、効果的な資料の提供の仕方があるといった意見があった。

次は、資料３－１、３－２、３－３のクドバスの調査結果について、これを資料４にどう生かしていくかということだが、簡単に資料３－１、３－２、３－３の内容について押さえたいと思う。

テーマ１から先行して調査を行った。テーマは「小田原の地域資源を生かしたキャンパスおだわらのあり方と方向性」ということで、前年度キャンパスおだわらのあり方や方向性について議論したところ､何を重視すべきなのか、キャンパスおだわらの方向性について見えない部分があるといったことがあり、目指す姿が分からないという意見がかなりあった。

そこで、前年度の後半にワークショップを開催し、議論し整理していった。その上で、あり方や方向性についてそれぞれを大項目、中項目、小項目に分類し、それぞれの緊急性、重要度、難易度、実施といった項目について運営委員にも５段階で評価してもらった。

その合計点を平均化したものがこの点数になる。キャンパスおだわら運営委員会委員については、実施しているかどうかの項目については判断がつきにくいので調査せず、行政の各担当者とキャンパスおだわらの運営を担っている人たちに実施してもらった。

調査により結果が明らかになったところだが、資料３－２を見ていただきたい。中分類の緊急性と重要性の合計の順位別に並べてもらったものになるが、一番緊急性が高く重要だと思われたのは市民ニーズの把握であり、次に情報発信のあり方ということで、先ほど自分時間手帖の話もあったが、情報発信のあり方の検討が重要である。３つ目がまちづくりの人材育成やまちづくりのあり方といったところが重要である。４つ目が、行政が担うところと民間が担うところの住み分けを明確にすべきだという、運営の仕方について。さらに運営のあり方ということで、資金や運営形態について、ターゲットやセグメントについて何を重視して行うべきなのか、優先順位を決めるべきなのではないかという意見。後は講座の設定ということで、行政と地域の担っている方とどう連携していくのか、さらには開催日時や場所のあり方、講師のあり方、内容について、受講後の活動サポートといったことが挙げられた。

かなり皆様が議論していた内容と近いところがあると思う。

何を重視してこれからキャンパスおだわらとして実施していくべきかという議論もあるが、今回は先に進めさせていただく。

資料４を見ていただきたい。

本日の本題は資料４と資料５になる。資料４は、前年度提示された総合計画に照らし合わせた目指す姿の案について、右側に皆様から議論いただいた内容を記載しているが、それを担当者が目指す姿にあてはめてくれた。この目

指す姿がこれで良いかを議論してもらいたいとのことなので、意見をいただきたい。
資料４の総合計画と目指す姿について、一つ一つ説明してもらえるとありがたい。事務局いかがか。

大木副課長　おだわらＴＲＹプランが一番左端にあり、詳細施策として３つ挙げている。「多様な学習の機会と情報の提供」「郷土についての学びの推進」「学んだ成果を生かす環境づくり」である。この３つが生涯学習を推進するための施策である。その具体的な対応が構成要素という形で記載してある。
「多様な学習の機会と情報の提供」の中には、１つ目として「社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会の提供」、２つ目として「多様な学習情報の提供」、３つ目として「市民の主体的な生涯学習の運営」がある。
次に「郷土についての学びの推進」では「地域資源を活用した、郷土について学ぶ機会の提供」、そして「学んだ成果を生かす環境づくり」では、「質の高い継続した学習活動へとつなげるための環境づくり」及び「意欲を持ってまちづくりに取り組む人材の育成」ということが総合計画上の説明書きとして記載されている。それに応じてキャンパスおだわらで何を目指していくのかという目指す姿について、これは今まで確定していなかった部分であるので、事務局案としてここで示させていただいた。
「多様な学習の機会と情報の提供」というところでは、目指す姿として、１つ目は「小田原市の課題に対応した講座が提供されている」、２つ目は「市民ニーズ（分野・対象・開催場所）に対応した講座が提供されている」、３つ目は「さまざまな団体により講座が開催されている」、４つ目は「さまざまな団体が連携して講座が開催されている」。こういった姿が、「社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会の提供」を実現するためにあるべき姿であると考えている。
「さまざまな学習情報が収集、活用されている」、「学習意欲を喚起する情報を発信している」、「必要な情報が必要な所に届いている」、これらは総合計画でいうと、「多様な学習情報の提供」を実現するためのあるべき姿である。
「市民全体のために運営されている」、「生涯学習が、市民の手により円滑に推進されている」、これらの目指す姿は総合計画でいうと「市民の主体的な生涯学習の運営」を実現するためのあるべき姿である。
「小田原の人材、歴史、文化、産業、自然環境などさまざまな資源を取り入れた講座が開催されている」という目指す姿は総合計画でいうと「地域資源を活用した、郷土について学ぶ機会の提供」を実現するためのあるべき姿である。
「学習記録の認定など、学習活動の継続を促す仕組みがある」、「さまざまな学習成果発表の場が提供されている」、「サークル活動が活発に行われている」、

これらの目指す姿は総合計画でいうと「質の高い継続した学習活動へとつなげるための環境づくり」を実現するためのあるべき姿である。
「学習の成果がまちづくりに生かされている」という目指す姿は総合計画でいうと「意欲を持ってまちづくりに取り組む人材の育成」を実現するためのあるべき姿である。
これらはあくまで案ということで目指す姿を記載させていただいた。これで良いかどうか議論していただきたい。

委員長　資料の右側の「事業名」の黒丸の意味や「指標」についても説明していただけないか。

大木副課長　まず「クドバス」という欄は、皆様に調査していただいた結果であり、先に説明したとおり、項目の中で上位半分を目指す姿にあてはめた。目指す姿は一度昨年の第４回運営委員会で示させていただいたが、この調査結果に基づいてそれを一部手直しした。
続いて、「事業名」であるが、目指す姿を実現するためにどのような事業が行われているかという対応表になる。例えば「小田原市の課題に対応した講座が提供されている」という目指す姿に対しては、行政講座に丸が付いている。これは、行政講座を開設することでこの目指す姿を実現していくという意味になる。同じく「市民ニーズ（分野・対象・開催場所）に対応した講座が提供されている」という目指す姿に対しては、事業としては行政講座だけでなく市民講座、企業企画講座、教育機関等企画講座及び人材バンク企画講座といったもので実現していくという意味になる。以下説明は省略させていただくが、このような形になっている。
一番右に「指標」欄があるが、これは目指す姿が実現されているかどうかを表したものである。目指す姿はこの指標とその値がどうかというところで実現されているかどうかを判断していく予定である。以上、資料４の説明とさせていただく。

委員長　まず意見交換する前に、資料の見方等で分からない点などあるか。

（なし）

委員長　キャンパスおだわらの方向性を決めるということで、どのような文言が良いかということが今日の大きなところになる。
では、資料４の見方については大丈夫という前提で進めさせていただく。全体を読んで、目指す姿としての意見はあるか。

有賀委員　　クドバスの調査表の項目から目指す姿を導き出したのか。

友部課長　　もともと昨年度第４回の運営委員会の時に目指す姿の案を提示させていただいた。そこに今回のクドバスの調査結果の上位半数をあてはめていった。あてはめ終わって照らし合わせた時に、もう少しこうした方がいいのではないかという部分を修正させていただいた。それが今回の目指す姿の文案になっているので、何ヵ所かはより洗練された形になっていると思う。

有賀委員　　前回の目指す姿は今回よりも大まかなものであったか。

友部課長　　もっと細かいものもあり、それをまとめたものもある。例えば、前回の表現の中に、市民による講座が開催されている、行政による講座が開催されている、企業・教育機関による講座が開催されている、市民・行政・教育機関などが連携して講座が開催されているといった個別の表現があったが、今回は市民・行政・企業・教育機関を一つとして「さまざまな団体による講座が開催されている」という形で表現している。ただし、大きく意味が変わっている部分は無い。

大木副課長　昨年度第４回運営委員会では、今と同じように目指す姿と指標について議論をしていただいた。しかし、その時にキャンパスおだわらの実態などがなかなか分からないこともあり、議論が深まらなかった。そこで齊藤委員長からワークショップを行って、もっと内容をざっくばらんに話し合ったらどうかとの提案をいただき、クドバス方式のワークショップを開催した。今回は昨年度第４回の議論にもう一度立ち返っていただいて、ワークショップを開催したことでキャンパスおだわらのことをもう少し理解していただいた上で、この目指す姿と指標案についてどうなのかというところを見直していただきたい。

委員長　　それでは、指標についてもあわせて議論した方が良いと思われるので、指標案を事業ごとに表記している資料５について、もう一度細かく説明してもらえないか。

大木副課長　指標については、まず資料４について説明させていただきたい。指標の設定にあたっては、目指す姿が実現されているかどうかとうい視点で捉えている。まず、「小田原市の課題に対応した講座が提供されている」という目指す姿をどういった指標で見るかというところが「指標」欄にある。「行政講座定員充足率」「出前講座のメニュー注文充足率」というところで、行政講座については課題に対応した講座なので、我々行政が講座を提供する際に市民に知って

ほしいということで講座を開設している。その定員が満たされれば、目指す姿が実現されているのではないかということである。出前講座についても、市民に知ってもらいたいという目的からメニューを設定しているので、活用されているか、注文があるのかどうかというところから、この指標を設定している。

次に、「市民ニーズ（分野・対象・開催場所）に対応した講座が提供されている」という目指す姿を判断する指標として、「講座定員充足率」「認定講座数」「講座満足度」「開催講座ジャンル数」という４つの指標になる。定量的な意味では「認定講座数」と「開催講座ジャンル数」でどれだけの講座と種類があるのかを見る。定性的な意味では、「講座定員充足率」ということで、定員が満たされていれば、市民ニーズに対応した講座が提供されているのではないかという判断である。「講座満足度」はアンケート調査の結果になると思うが、市民が満足しているかどうかが、ニーズに対応しているかどうかに繋がるのではないかという判断から設定している。

「さまざまな団体により講座が開催されている」という目指す姿に対する指標としては、「キャンパス講師登録者数」「認定講座数」「講座開催団体数」を挙げている。

「さまざまな団体が連携して講座が開催されている」という目指す姿に対する指標としては、「連携講座数」を挙げている。

続いて、「さまざまな学習情報が収集、活用されている」、「学習意欲を喚起する情報を発信している」、「必要な情報が必要な所に届いている」という目指す姿については情報発信ということで一括りとして、「講座情報収集数」、これはどれだけ情報が収集されているかについて、また「学習活動提供元把握数」については、いろいろな所から情報を集めているので、いつも情報を出してくれている情報発信元が増えれば情報が集まりやすいということで設定している。「相談者満足度」については、情報は学習相談に活用してこそ生きてくるということがあるので、相談者の満足度をもって情報が収集されているかを判断したい。「発信情報を見て講座を受けた人の率」は、アンケート調査になると思うが、講座に参加した人がどのような情報を見てきたのかを調査し、発信した情報を見て参加してもらえていれば、目的は達成されているということになる。「キャンパスおだわらホームページアクセス数」はどれだけ情報が見られているかの指標となる。

次に、「市民全体のために運営されている」という目指す姿に対応する指標としては、キャンパスおだわらが市民のためになっているのかの判断として、「適切な事業コスト」、これは税金が投入されているので、そのコストが適切であるかどうか、その他「講座満足度」「相談者満足度」を指標としている。

「生涯学習が、市民の手により円滑に推進されている」という目指す姿に対応する指標としては、運営を担っている団体について「年代別参画者率」「男

女別参画者比率」「参画者満足度」というところで、参画率の割合は何が良いという訳ではないが、幅広い年代が参加されていた方が円滑なのではないかという視点から設定した。また、キャンパスおだわらの理念として学ぶ喜び、教える喜び、運営する喜びというところがあるので、運営する喜びとして参画者の満足度を指標としている。「人材バンク自主講座開催数」については、直接の運営者ではないが、キャンパス講師として登録されている人が教える喜びを担っているので、この指標とした。また、この部分の指標については、これから運営に関するテーマ２の調査もあるので、その結果も踏まえ考えていきたい。

「小田原の人材、歴史、文化、産業、自然環境などさまざまな資源を取り入れた講座が開催されている」という目指す姿に対応する指標としては、「郷土学習の講座数」ということで、講座認定の際に資料に付けられていた【お】マークが小田原ならではの講座ということで、この講座数がどうなのかが判断となる。

「学習記録の認定など、学習活動の継続を促す仕組みがある」という目指す姿に対応する指標については、事業名の学習相談と運営の欄に丸が付いているので、事業を展開しているように見えるが、今現在具体的に学習相談以外の仕組みが無いので、この段階で指標を挙げることができない。

「さまざまな学習成果発表の場が提供されている」という目指す姿に対応する指標としては、学習成果の発表の場としては、サークル団体の方々がフェスティバルとして実施しているものが該当するので、「フェスティバル参加団体数」「フェスティバル来場者数」を挙げている。

「サークル活動が活発に行われている」という目指す姿に対応する指標としては、けやきを中心に活動されている「サークル数」や「サークル活動による施設利用数」の推移を見て判断していきたい。

最後に、「学習の成果がまちづくりに生かされている」という目指す姿に対応する指標としては、非常に難しいところではあるが、「受講後まちづくりに貢献したいと思った人の率」ということで、これは主に行政講座になるが、受講後のアンケートにこのようなアンケート項目があるので、これで判断していく。またもう少し大きな成果という判断になるが「市民活動者数」を指標として挙げている。

資料５－２を見ていただきたい。

資料４では目指す姿に対応する指標であったが、それぞれの事業に指標を落とし込んだものが資料５－２になる。右側に平成２５年度の実績値を載せているが、これを一つの目安としてこれからどのような数値を目標にするか検討していただきたい。まだ把握しきれていない項目もあるが、この資料を参考としていただきたい。

委員長　　資料４も資料５も少し複雑ではあるが、今説明してもらったので、まず質問などあるか。

岩屋委員　　まず確認だが、この総合計画は何年までの計画か。

大木副課長　前期は平成２８年度までとなる。後期はその後６年間であるので、平成３４年度までとなる。

岩屋委員　　ということは、資料４に記載されている総合計画は３４年度までは変わらないという認識で良いか。

大木副課長　これは前期の総合計画であるので、平成２８年度までとなる。

岩屋委員　　平成２８年度まではこのプランでいくということだが、それでいくとこの総合計画は変わらないわけだが、前回の提示でこれではわかりにくいという話があり、この総合計画の構成要素と目指す姿がなかなか結びつきにくいので、クドバスという手法を間に入れて、結び付けようとしたのがこの資料４という理解でよろしいか。

大木副課長　そのとおりである。

岩屋委員　　そうして見ると、今は総合計画の構成要素を変えようというわけではなく、これを実現するためには今後何をやっていけば良いか、そうした場合に今ここで指標を定めて、来年はこの指標を踏まえて進めていこうということになると思う。まず確認だが、この指標は例えば４半期ごとに区切りながら見て、テコ入れしながら進めていくのか、もしくはこの指標はあくまで年間の指標であり、例えば来年の３月の時点でどれくらいであったかを確認し、その目標に到達しないものがあった場合に、来年の対策をその時点で講じるのか、どちらか。

大木副課長　指標の最終目標としては、前期の総合計画の終わりである平成２８年度とさせていただく予定であるが、それを年度で設定するのか、細分化するのかについての案は持っていない。

岩屋委員　　通常指標を定めようとすると、まず現状を調査して、指標としては例えば前年度の５％アップを目指そうなどとなるのが普通の考え方だと思うが、やはり見える化ということで数値目標を立てないとなかなかその部分が曖昧になってしまうと思う。

そう考えると実績が無いものは指標を立てるのが難しいと思われる。その場合は例えば今年度データを取って、来年から指標を定めてやっていく形も考えられる。また、情報提供というところでは、ホームページのアクセス数を増やしました、学習相談の満足度を上げました、でもそれが本当に期待されている講座の満足度に繋がっているのかなど、関連はあると思う。そのような部分を評価する指標も今後作っていかなければならないと感じた。最初はある程度指標を立てて目に見える形にして、実際にそれを見ながらやっていくという形になると思うと、取り敢えずこの指標でスタートする形で良いと思う。

安藤委員　一点確認したい。フェスティバルに関してだが、資料５－２には生涯学習センターフェスティバル、公民館いきいきフェスタ、人材バンクフェスティバルという３つが挙げられているが、この３つのみの合計ということか。他の例えばマロニエで行われているものなどは含まないのか。

大木副課長　現在生涯学習が所管している学習という括りとしてのフェスティバルを挙げている。

永田委員　ものすごく大きな中で話が進んでいて、目指す姿の中のみを議論していくのか指標について議論していくのかという論点が理解できていない。

委員長　今は２つ同時進行で進めているが、まず決めるべきは目指す姿としたいと思う。

大木副課長　現在は事業ありきになっており、目指す姿や指標が設定されていなかった。そこを決めていこうというのが今の議論である。やはり順番からいうと目指す姿が先でその後指標を決める形になると思うが、指標を決める中で目指す姿が変わってくることもあり得ると思う。

石井委員　クドバスをやったことで自分の頭の中では理解度が上がったので、分かりやすくなった。目指す姿についてはおかしいところは無かったので良いと思う。

与那嶺委員　目指す姿と指標が具体化され分かりやすくなった。指標については、数の目標をどこに置くかが非常に難しい。実績の５％増、１０％増という話があったが、それなら立てられるが、そうでないと難しい。数の部分と質の部分の目安が出来ると良い。

副委員長　自分時間手帖は、自分が参加している団体も以前は載っていたが、新たに自

分時間手帖を作成する際、原稿が無ければ駄目だと言われ、面倒になって載せるのをやめてしまった。いろいろな団体の理解が必要である。
目指す姿については、これで進めて良いと思う。

左京委員　大きなところから行くと､指標は現状実施しているものが挙げられているが、より良い計画立案のためには、実はまだ事業に参加していない人の指標が必要になるかもしれない。例えば参加者のうち、６０歳以上が８割であった場合、まちづくりの観点からも若い人にどのようにコミュニケーションをとって、参加してもらうかなどの視点が必要だと思われる。
今後指標を見ながら実施するとき、すべてを万遍なく上げていくことが方向性ではなく、限られたリソース、人員を使って、より良いサービスを実施するにあたって、優先順位付けがされるべきである。
新しい事業や指標が作られていくべきであって、今の指標はあくまで現状認識という考え方で良いと思う。その上で、大きな戦略を目指すステップだと思っている。これからより良くしていくものである。
指標、内容をどういかすかという提案である。市民ニーズの把握は最上位に上がっている。
そもそも参加していない市民のニーズ把握をどうするかという問題もある。そのためにも、講座参加者の年代層や男女の数などの属性は前段階として把握すべき事項である。

岩屋委員　指標を作る上で必要な数値だと思う。指標を作る前段階だと思う。

安藤委員　昨年から問い合わせをすればわかるが、今はわからないと言われてきた。属性情報は把握できないのか。

大木副課長　認定講座数が１，２８４とあるが、これにはこちらで企画したもの、情報提供しただけのものもある。
全体の把握は難しいが、行政講座など、限定情報としては持っている。

岩屋委員　取っている講座と取っていない講座があるということか。

大木副課長　行政が実施しているものや、キャンパスおだわら事務局、人材バンク実行委員会が企画する講座などではアンケートを取っているので、把握している。

安藤委員　前もって講座の情報があるとき、依頼できないか。

友部課長　市民講座も含めたすべての講座の参加者の情報は把握できないが、例えばキ

ャンパスおだわら情報誌に掲載した講座に対して協力を求めることはできる。

岩屋委員　分母をどうするのかという問題がある。全体ではなく、把握しているものから取った方が良いのではないか。

友部課長　おっしゃるとおり、出来るところからやっていくべきである。それで良いかは別問題としてあるが。

委員長　総合計画でも市民ニーズが求められ、さまざまな年代や性別、地域の把握も必要と思うが、まずは可能な範囲で限定して参加している人の分析から始める形でも良いと思う。
左京委員の意見はテーマ３の話でもあるが、市民ニーズの把握は難しい。次回以降でとり上げたい。
目指す姿の文言についてはこれで良いか。

（異議なし）

委員長　指標を定める中で、後でまた目指す姿に戻っても良いと思う。仮にこれで進めることとする。
それでは指標について、与那嶺委員いかがか。

与那嶺委員　指標とは、目指す姿を達成するための、達成されているかどうかを計るものという認識で良いか。

委員長　そのとおり。生涯学習は数で評価するものと質で評価するものがあり、質で評価するものは大学でも研究しているが、すごく難しく具体化しづらい。まずは数で評価する形で良いと思う。
それでは私から質問させて頂く。開催講座ジャンル数のジャンルとは領域ということでよいか。

大木副課長　資料１の認定講座リストにあるジャンルよりももう少し細かいもの、ジャンル表の中の例示に出てくるレベルを想定している。

委員長　なぜこのようなことを聞いたかというと、目指す姿にまちづくりの人材育成があったが、今のジャンル表の中に「まちづくり」というキーワードが無い。
まちづくりの育成に視点をおくのであれば、分類の仕方にも工夫が必要である。国の調査などで比較もできる。
また、講座参加者の現状分析が重要である。参加者の実際の属性がどうなの

か把握すべきである。クドバス６－１に開催講座の日時、曜日、場所とあるが、指標にはない。曜日、時間帯などの把握が必要。
相談者の満足度はどう計るのか。

大木副課長　現在は計る方法が無いが、相談カードをいうものを作成しているので、そこに相談者にチェックしてもらう項目を設けるなどして計っていきたい。

委員長　郷土学習とまちづくり人材育成の住みわけが必要かと思う。イコールでよいか。

友部課長　確かに重なるものもあるが、すべてが同じではないと思っている。

委員長　現状として、まちづくりに関係する講座があるのかということも含め、まちづくりに関する講座数は指標に入れたらどうか。

友部課長　講座の把握は可能と思う。

岩屋委員　話がずれてしまうが、認定講座については同様の講座であっても開催時期が違うと改めて認定しているのか。

Ｃ事務局　認定している。

岩屋委員　同様の講座であれば、一度認定すれば大幅に内容が変わったりしない限り認定し直さなくても良いのではと思う。その方が改めて認定する手間も省けるし、認定講座数としても、本来の認定講座のイメージと近くなる。今後検討していただきたい。

左京委員　まちづくりに関しては、一度まちづくりというものを分解した方が良いと思う。
キャンパスおだわらの目指すまちづくりとはどのような行為なのかを確認することで、その目的を達成するためには、ＮＰＯの数を増やすのか、その従事者を増やすのか、ＮＰＯではなく従来の地域活動の担い手を増やすのかなど、おのずと指標が見えてくる。
目指す姿の「小田原市の課題に対応した講座が提供されている」については、課題を知ること自体がまちづくりの第一歩、課題に対応した講座を提供するということよりも、その結果としての市民の姿、「小田原市の課題について知っている」という形にした方が良いのではないか。例えば７０％の市民が小田原市の課題について知っていれば、それはまちづくりにも結びついてくる

はずである。

大木副課長　資料４に記載されているのは総合計画の詳細施策であり事業となる。この上の大きな部分として「郷土に誇りを持つ心豊かで多彩な人材が、さまざまな場で活躍している」ということが書かれており、それが生涯学習という意味での市民の目指す姿であると思われる。

委員長　左京委員は市民がこうなるという視点で目指す姿を設定すべきとの意見だと思う。
今後、指標を考えていく中で適宜修正していく形でも良いと思う。
とりあえずこの目指す姿でスタートするということで良いか。

（異議なし）

委員長　それでは、指標について永田委員いかがか。

永田委員　さまざまな講座が開催されているとあるが、同じジャンルの講座であっても講師の方のレベルの差もあると思う。まったくの初心者を対象とした講座や、少し勉強した人が受ける講座など。クドバスの項目８－１にある「行政が担うものと民間が担うものとの線引きをする」というのは、レベルの差のことをいっているのか。

大木副課長　講座にはジャンルとは別にレベルの差もあると思う。クドバスの項目８－１については、これを挙げた人でないと本当の意味合いは分からないが、レベルの差というよりも、講座の種類として、行政がやるべき講座と民間でやってもらうべき講座との住み分けの話だと考えている。

委員長　今社会教育が批判されているところで、趣味のものはお金をかけるべきかという議論がある。国の方針では、生涯学習も地域づくり、まちづくり、人づくりが行政といった方針になっている。
講座のレベルを段階として載せていくのは良いと思う。初心者向け・中級者向け・上級者向けなど。
いろいろな案が出たが、それでは、指標についてはまずはこの内容で進めていく形でよいか。

（異議なし）

委員長　調査は大変だったと思う。ありがとうございました。それでは、その他とし

て事務局から何かあるか。

諸星部長　その前に一言よろしいか。
左京委員のご指摘のところだが、「小田原市の課題に対応した講座が提供されている」ことと「意欲を持ってまちづくりに取り組む人材の育成」は実は重なっている部分が多い。クドバスの表現の８－２「市のビジョンを明確にし、それに沿った講座を企画・実施する」と１－１「社会の状況を分析する」はまちづくりに取り組む人材育成にも関係してくる。ひとまずは今回の形で進めさせていただくが、表現しきれていない部分もある。
生涯学習以外の分野は行政課題が明確であり、企画する講座がそれぞれの行政課題に対応しているが、それ以外の地域コミュニティなど全体の今日的な課題に対応することが、生涯学習が目指しているもの、キャンパスおだわらが目指しているものでもある。先ほど左京委員も言われていたが、事業化できるものしか数値になっていない。まちづくりにどう生かすかも事業化できていない。そこまで及んでいない。事業化できていない部分についてどうあるべきか、今回はそこまで至れなかった。今後そういった部分についてもご協力いただきたい。

友部課長　講座を提供することが目的ではなく、サービスを提供したことによって小田原市がどうなったかが最終目的だと考えている。その数値を出すのは難しいが、事業を進める中で、このような指標はいらないとか、目指す姿はこうすべきだなど、柔らかい中で動かしていければ、と思う。

３．その他

・次回の運営委員会は平成２６年８月２７日(水)午後開催予定。後日案内を発送。

以上